

浅草寺病院だより

2019年
【秋号】

2019年10月10日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



ご挨拶

脳神経内科 上山 勉

2019年4月に浅草寺病院に常勤医として勤務致しました。専門は脳神経内科で日本神経学会専門医です。脳神経内科もいくつかのサブスペシャリティがあり、私は脳卒中というより神経難病を多く診療してきました。浅草寺病院の前は府中の都立神経病院に勤務していましたが、神経病院は筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病をはじめ、多くの神経難病の方々が入院されています。その中でも特にパーキンソン病やジストニアの患者さんにボトックス注射や脳深部刺激療法(以下 DBS)という治療を先輩の先生方や脳外科の先生方とともに行って参りました。パーキンソン病の病初期はハネムーン期といって、抗パーキンソン病薬(以下抗パ薬)がほとんど副作用なく効果を発揮する時期がありますが、神経病院に入院される患者さんは進行期で、抗パ薬の副作用で日内変動やジスキネジア・ジストニアなどが出現している方々です。その中で認知機能低下が顕著でない方々がDBSの適応となります。神経病院はDBSを本邦で早期に導入したため、多くの長期DBS適応患者さんが通院されています。パーキンソン病の患者さんはそれぞれの症状や治療の反応性が様々ですが、一般的に抗パ薬やDBSなど脳外科治療を上手に使っていただくことで比較的長くADLを維持できるようになってきています。浅草寺病院でDBSを行うことはできませんが、当院通院の患者さんには必要な治療が必要な時期にご提案したいと思っています。自身の専門であるパーキンソン病のお話をしましたが、その他神経難病や脳卒中の患者さん、その他一般内科疾患に罹患している患者さんが幸せな生活が過ごせるように努力したいと思っています。

小児科医の役割の変容について

小児科 田村英一郎

医療の進歩、少子化社会への変化に伴い、我々小児科医の役割も、昔に比べて変わってきました。

肺炎球菌、インフルエンザ菌(ヒブワクチン)などの新規ワクチンの普及、抗菌薬などの治療薬の進歩に伴い、髄膜炎などの小児の致死性疾患の頻度が格段に減少しています。そのため、病気で受診する患者様の頻度が減り、代わって育児相談や発達障害の相談、不登校などの相談・カウンセリングなどの割合が増えています。

また近年では、新生児医療の進歩もあり、出生時体重が1000g未満の児の救命率も上昇しております。それに伴い、障害をかかえて生まれ、何らかの医療を要する『医療的ケア児』が増えています。そのような状況に対し、最近では小児の在宅診療も積極的に行われるようになってきました。ニュースでよく虐待の話がでてきますが、虐待を受けたり、支援が必要な子供やその保護者について、自治体が主体となり見守っていくというシステムがつけられています(要保護児童対策地域協議会)。その中に小児科医も多く関わるがあります。

今後も社会の変化、医療の進歩の中で、小児科医の役割が変化していくことが予想されますが、少子化傾向が進んだとしても、小児科医は、子供たちがいる限りは必須の診療科であると考えています。お子様のことで気になることや、悩まれていることなどがあれば、遠慮なく当院小児科にご相談いただければと存じます。

2019年4月に前任の保坂・田中医師より浅草寺病院の整形外科を引き継ぎ、気づけば秋になりました。

日本は超高齢社会を迎え、いかに元気なお年寄りを増やしていくか、健康寿命を伸ばすか、ということが求められるようになってきました。

国民生活基礎調査では、高齢者の介護が必要になった原因の30%は運動器に関連したものとされています。中でも骨折・転倒は12.2%となっており、その予防が重要です。

骨粗しょう症は全国で1300万人にのぼると言われます。骨粗しょう症は進行しても何か自覚症状を出すわけではありません。転んだり、尻餅をついたり、重いものを持った時に腰痛が出現したり、大腿骨を骨折したりしたことをきっかけに診断されるのです。つまり、調べなければ分からない、ということです。しかも、背骨の骨折や大腿骨、手首の骨折を起こしても骨粗しょう症まで調べられていないこともあります。ガイドラインでは背骨の骨折や大腿骨骨折を起こした場合、何かしらの治療をするべきとされています。ということは調べなさいよ、ということと同じことなのです。

骨粗しょう症は女性ホルモンが関与しているため、50歳以降の女性に多く見られますが、20～30%は男性と言われています。しかし、ホルモンだけではなく、若い頃からの運動習慣や、食生活、日に当たる時間、持病など様々な要因で骨の質は左右されるのです。そのため、骨粗しょう症と診断された場合、個人個人に合わせたオーダーメイド治療が必要なのです。

近年、様々な薬効の骨粗しょう症治療薬が使われています。それらを組み合わせることで骨の強度と質を改善し、折れにくい骨を作ることが重要です。それによって転倒・骨折による介護を減らし、元気なお年寄りを増やすのです。

医事課からのお知らせ

令和元年9月1日より、当院に電子カルテが導入されました。それに伴い、受付場所や受付方法が大幅に変更しました。簡単に受付方法を説明させていただきます。

・予約のある患者さま

再来機に診察券を通していただき、診察券と保険証をスタッフへお渡しください。

※予約がある患者さまでも予約外の科も受診したい場合は、直接再来機横のスタッフまでお声がけください。

・予約外の患者さま

再来機横にスタッフがおりますので、受診したい科を伝え、診察券と保険証をお渡しください。

準備が出来ましたら、受診票ファイルをお渡しいたします。

お呼びするまで受付前でお待ちください。

ファイルを受け取りましたら、各科受付へお出してください。

受付



スムーズに受付出来るよう、職員一丸となり取り組んで参りますので、ご協力をよろしく願いたします。